セレブも愛用！ 海外でランドセルが人気

日本人なら、たいがいの人が、かつてランドセルを背負った日を懐かしく思い出すだろう。

昔は、赤と黒だけだったランドセルだが、最近では、ピンク、黄色、水色と、カラフルになってきた。しかし、ランドセルのデザインは、昔も今もあまり変わらない。

ずっとランドセル派ももちろんいるが、小学校高学年になると、ランドセルから手提げかばん、リュックやショルダーバックに変える子も多く、高学年で背の高い子がランドセルを背負っていると、何となく違和感が…。ランドセルばかりはどうも、ピカピカの1年生のアイテムと思ってしまう。

ところが今、そのランドセルが、海外の大人の間で、流行している。なんでも、セレブなハリウッド女優が真っ赤なランドセルをかわいく背負っていたり、ニューヨークのオフィス街でビジネスマンがさり気なく、ランドセルの片側だけに手を通して通勤したり。男女を問わず広がっているらしい。丈夫でコンパクト。何より、新鮮なデザインがおしゃれ！なんだそう。

外国人だからかっこよく見えるのか、日本では考えられない光景だが、ピカピカの1年生の専売特許が消える日が来るのだろうか。

伊勢戸由紀の 発見！地球の子たち Vol.8

オーガニックカレー専門店「Cafe&Curry さいさい」来春オープンします！

いせとゆき●にんじんCLUB代表。「畑と台所をつなぐ」をコンセプトに、有機野菜の宅配ほかレストランにんじんを経営。農業体験やセミナー企画などさまざまな情報を発信。http://www.ninjinclub.co.jp/
愛知県小牧市中央2-246　TEL0568-71-4114

レストランにんじんの姉妹店として来春オープンするカレーショップの店長が決まりました。愛知県江南市在住の杉山剛さん、5歳の息子さんのパパです。カフェ好きが講じ20代～30代にコーヒーショップを運営。閉店後、ミスト（霧）を建物に設置する会社を任されていた杉山さんですが、レストランにんじんの屋上菜園にサンプルミストを設置してくれたのが、そもそもの出会い。

私の描いていた「地域を元気にするカレーショップ」の夢に共感してくれた杉山さん。店長を引き受けてくれることになりました。

店名は「Cafe&Curry さいさい」に決定。店の基本メニューとなるカレーは、現在もレストランにんじんで提供している「さいさいカレー」（野菜をベースにしたルー）にオーガニックスパイスを加えてスパイシーに仕上げたもので、辛さはお好みでチョイスできます。

開店は来年の4月1日を予定。エイプリルフールですが、嘘ではありません！　残り4か月で夢を具現化する必要があります。

試作、味見、検討、家具の見立て、予算、設計士との調整といった事柄を決定し、開店後は毎日の業務を滞りなく進めていけるようにしなければなりません。

この波に乗る「波ノリチーム」は、Nハーベストの鈴木代表、那珂川キッチンの渡辺さん、設計士の一柳さん、レストランにんじんの上田料理長、愛あるホンネ部の皆さん、デザイナーの斎まゆみさん、生協病院の関係者、竹中工務店の皆さん、にんじんCLCUBの生産者、スタッフ一同で編成。杉山店長を船長に、時にはオールを漕いで一つひとつの波を超えていく。そんなイメージが膨らんでいます。

さながら私は羅針盤でしょうか。ある時は追い風に、またある時は闇夜を照らす月にもなって、「Cafe&Curry さいさい」をナビゲートしていくことをとても楽しみにしています。

この小さなカレーショップを訪れた皆様が、有機野菜の魅力に触れ、フェアで平等な世界の必要性を感じ、遠い国のスパイスの生産者様と地域の野菜の生産者様のことに想いを馳せられる出会いの場となるように。願いを込めて「さいさい号」が出港します。

● Cafe&Curry さいさい
名古屋市緑区大高町字平子36
南生協病院「よってって横丁」1階

しあわせの音色★吉末瑞菜

あのひとときを思い出す

金木犀が香り、木の葉が色づき秋の気配がすると必ず思い出すあの時の感覚。そわそわして、ウキウキして、これから訪れるであろう幸せに、いてもたってもいられなくなるようなあの感じ。秋は私に妊婦さんだった時のドキドキを思い出させてくれます。

私は12月に娘を、10月に息子を出産しました。どちらもこの季節は大きなお腹をさすりながら、これから出会える命に思いを馳せていました。

毎日、仕事や家事に追われる日々の中でも、秋の雲や木々を見ては「あ、あの時と同じだ」と、幸せな気持ちを思い出すことができます。

もともと遊ぶことが大好きだった私は、それまでは夏が一番好きな季節でした。なので、にぎやかな夏が過ぎていく秋はどこか寂しく、あまりいいイメージを持つことができずにいました。

けれど、子どもたちと出会えたことで、秋がこんなにもワクワクしたものに変わるなんて！ 妊婦さんでいられる時間は子どもたちからの最初のプレゼントだと思います。

お母さん、仕事始めました ⑥

厚海有美

娘の小学校入学を機に7年ぶりの社会復帰を果たしました。
仕事は、ランチタイムのホールのパート。
職場の方たちや家族に支えられ、なんとかがんばっています…。

楽して生きてる人はいない

仕事中にいろいろあって、ちょっとどんより気分の帰り道。

たまたま寄ったコンビニで、レジのお兄さんがとてもさわやかで感じのいい接客をしてくれて、疲れが吹っ飛びました！

忙しそうだったのに、笑顔で楽しそうな感じで仕事をされていて。

お兄さんだって、ニコニコしていたからといって、いい状態だったとは限らない。もしかしたら店長に怒られたばかりだったかもしれないし、もしかしたら彼女にフラれた直後だったかもしれないのに（勝手にいろいろ想像してゴメン）。

うちの旦那だって、愚痴一つ言わないけど（いや、少しは言うかな）、仕事、がんばってるもんねー。

娘だって、毎日ハイテンションで楽しそうにしてるけど、最近バレエのお稽古見てるとずいぶん厳しくなってきてるし、学校でもきっと、私が思ってる以上にいろんなことがあるでしょう。

楽して生きてる人なんて、きっと一人もいないよね。お金持ちにはお金持ちの、美人には美人の悩みがきっとあって。それでもみんな、普段はそれを表に出さずに暮らしている。

人間、調子がいい時にゴキゲンでいられるのは当たり前のこと。うまくいかなくなった時にこそ、その人の本性が現れるんじゃないのかな？

おそらく、自分が思っている以上に、お客様からよく見られている私の仕事。いろんなことがあるけれど、わざわざうちの店に足を運んでくださったお客様のために、いつも気持ちのいい接客ができるようにしたい。

そのためには、自分の心と体の状態を整えておくことも、重要なお仕事の一つといえるかも。接客のプロとして、あのコンビニ店員さんの笑顔を見習おう！（つづく）

日本の伝統発酵食品である味噌が、一人の女の子の人生を変えた！

ミソガールをモデルにした味噌漫画が誕生！

美健ガイド社「食育シリーズ」待望の新刊！

あらすじ
アパレル業界で働いていた頃、不摂生な生活を続けた結果、ひどい肌荒れに悩む藤本智子。途方に暮れる中、味噌屋の良吉に出会い、「味噌は美蘇」「味噌は命の源」と知る。「味噌活365日」を宣言した智子は、味噌を毎日の生活にとり入れ、しだいに心も体もキレイになっていく。それは、いつか母となるための大切な準備でもあった…。

真弓定夫先生
真弓小児科医院院長
（医学博士、小児科医）

渡邊敦光先生
広島大学名誉教授
（理学博士、医学博士）

池川明先生
池川クリニック院長
（医学博士、産科医）

監修

藤本智子
自称「日本一の味噌ファン」。ミソガール1号。みそソムリエ。ジャパン味噌プレス編集長

発行：美健ガイド社©
定価：本体400円＋税

注文　ジャパン味噌プレス　http://misopress.com/　ご注文・お問合せはTEL045-444-4183　11冊以上おまとめで全国送料無料！ 10冊以下はメール便送料82円